

個別分野ワークショップの概要

■ 目的

① 9つの戦略分野ごとの「9年後のありたい姿」に至るため仮説・ステップ
「ロジックモデル」の全体像共有

② 事務事業等によって最初に起こる変化「初期アウトカム」の情報収集・共有

■ ワークショップ実施の狙い

政策検討への市民等の参画

① 市民・事業者・関係団体等の視点や考え方を理解・共有、気付きを得る

② 行政単独ではなく、協働で施策を推進するための関係構築、機運醸成

■ 参加者

市民・関係団体など取り組み・事務事業等への協働・協力・関係者 延べ41名
策定チーム員など市職員 延べ35名

■ 期間

令和5年4月27日・28日、5月8日・9日

各分野2時間

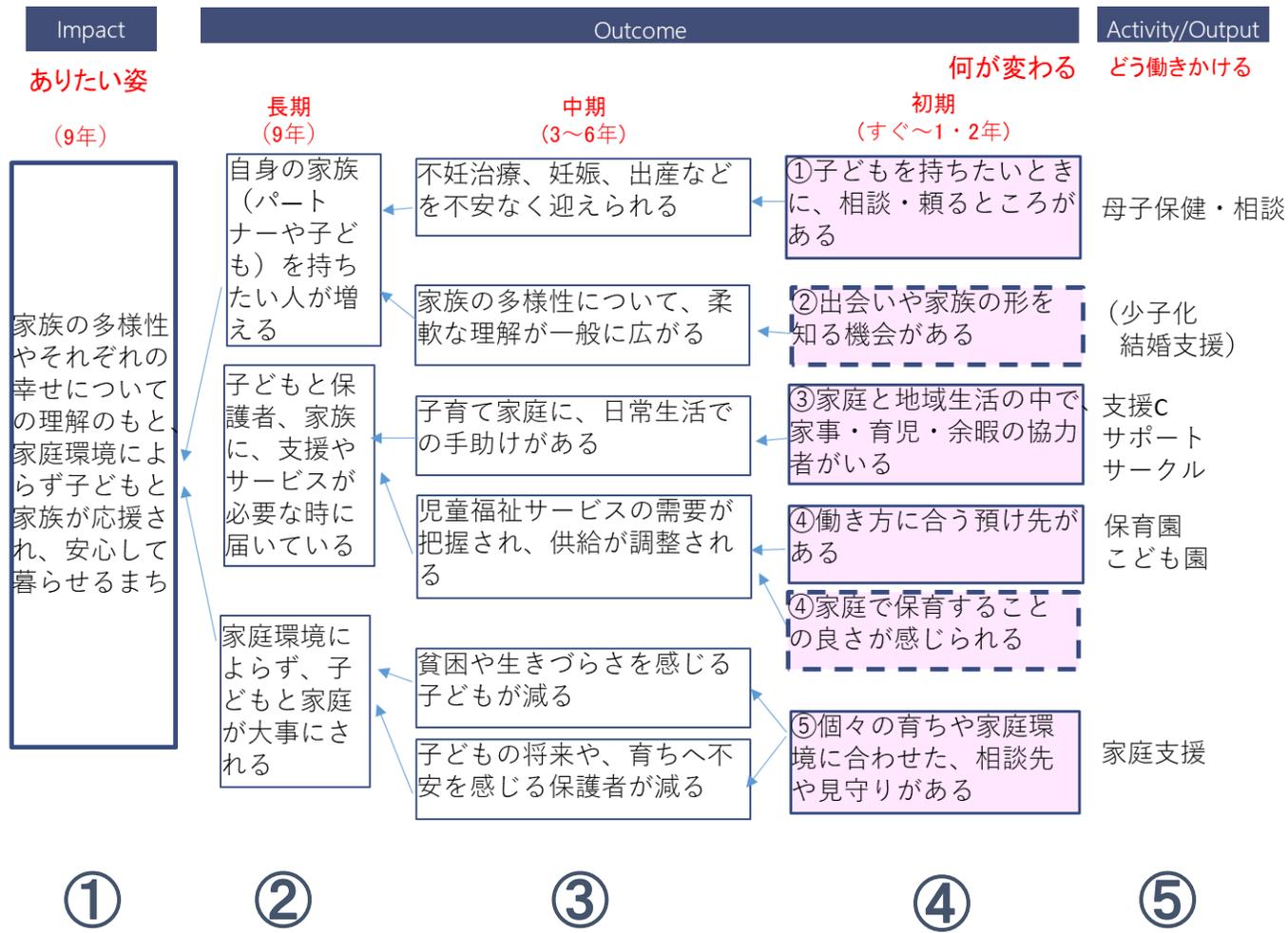
(分野⑦地域社会・支え合い は別途実施)



施策体系検討のための仮説（ロジックモデル）

■ロジックモデルとは（解説、例・見方）

「もし～ならば、こうなるだろう」という仮説として、
 資源投入（インプット）、活動（アクティビティ）、産出（アウトプット）、
 効果（アウトカム）を繋ぎ合わせ、**取り組みが成果を上げるために必要な要素を体系的に図示化したもの。**

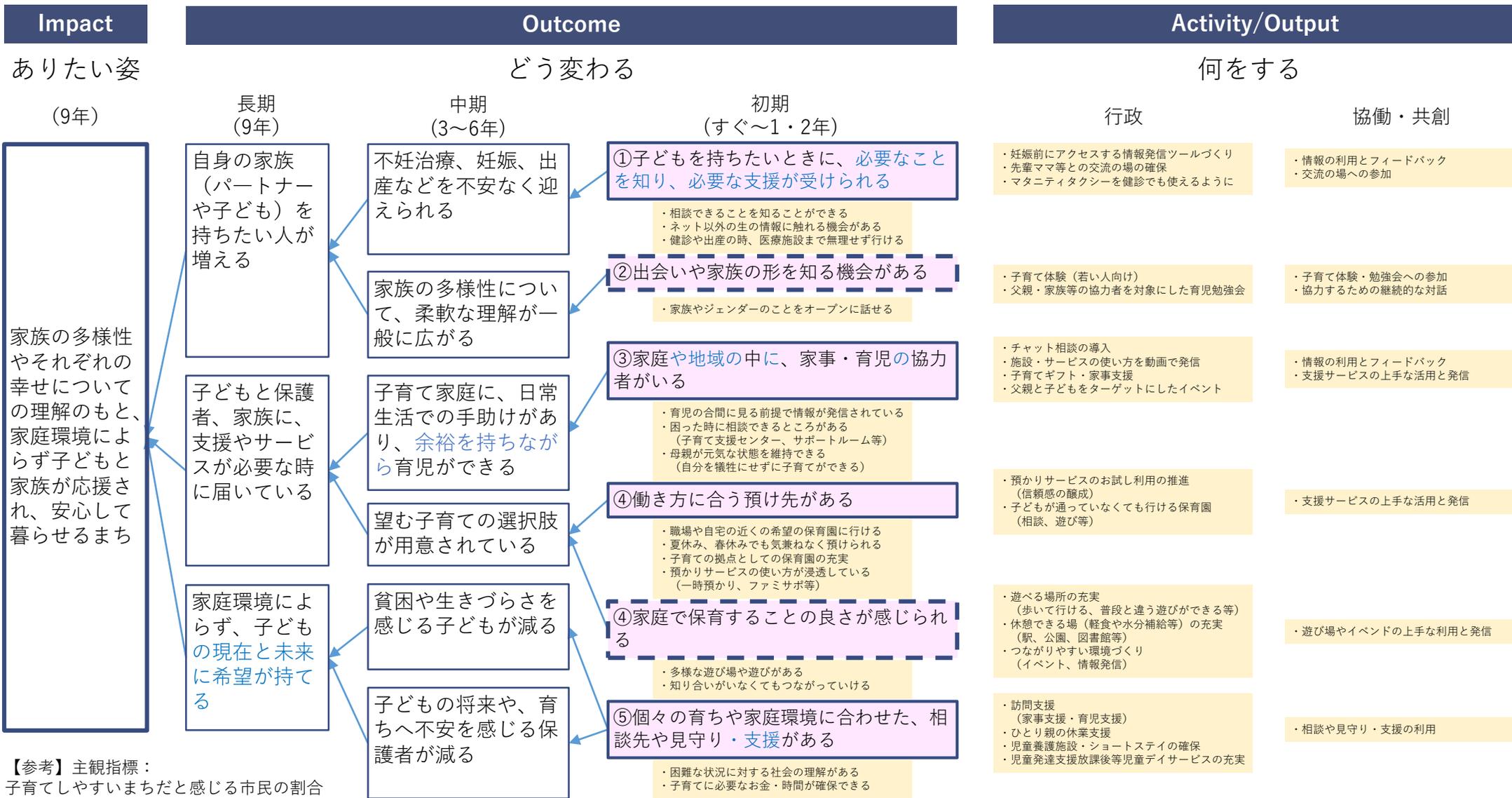


- ① **【ありたい姿/インパクト】**
この分野の9年後の目指す状態
- ↓ 分解
- ② **【長期アウトカム】**
ありたい姿を達成するために、実現されていないといけない変化
- ↓ 分解
- ③ **【中期アウトカム】**
長期アウトカムを達成するために、中間（第1期終了後から第2期中期戦略期間）で実現されていないといけない変化
- ↓ 分解
- ④ **【初期アウトカム】 ※「施策」相当**
施策・事業の実施により、受益者に期待する短期的変化
※現在あまり取り組み・事務事業がないものは点線枠
- ↓ 分解
- ⑤ **【どう働きかける】**
実施される取り組み・事務事業・主体等

■ロジックモデル作成・活用のメリット

- 戦略・施策のつながりが見え、ブラッシュアップできる
→ 総合計画と施策の関係が明確になり、不足部分が見える
※ありがたい姿からの逆算で増やしたいもの、減らしたいものを検討しやすい
- ステークホルダーとのコミュニケーションの質が向上する
→ 市役所の他部署、実務者、市民との対話に使える
※ワークショップでの意見交換で、目標の検討と共有ができる
- どの部分がうまくいったか/いかなかったか、評価できる
→ 評価項目を事前に決めて、必要なデータを集められる
※重要なポイントに指標を定めることで検証につながる

(出所) 「ロジックモデル作成研修 2023.02.17」 (信州大学特任教授 荒川 裕貴)



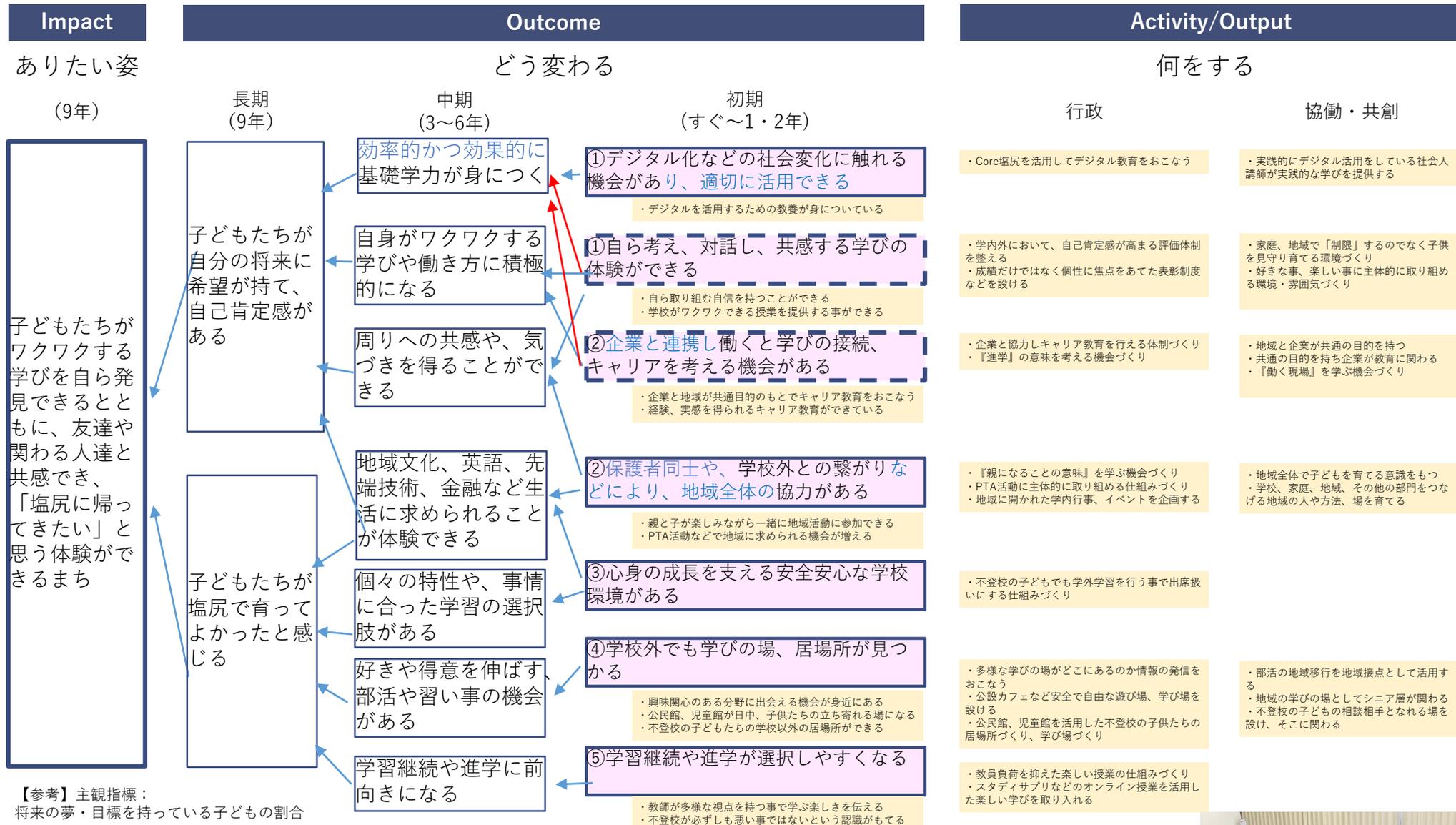
【参考】主観指標：
子育てしやすいまちだと感じる市民の割合

ワークショップの内容・ロジックモデルの変更点の概要

- ・ロジックモデルに沿った意見交換が行われ、初期アウトカムについて具体的なイメージが多数出された。
- ・ロジックモデルの見直しに関する意見は出されなかったが、初期アウトカムの具体的なイメージを踏まえて、文言を調整をしている。
- ・アクティビティについては、既存の施策・事業を上手に活用するために、行政側は情報発信やお試し利用の取り組みを充実すること、利用者側は上手な活用方法の発見と発信を積極的に行うことが必要、という観点で多くのアイデアが出された。
- ・また、少子化が進み園児が減少する中で、子育ての拠点としての保育園の機能の充実についても意見が出された。



※青字は意見などを受けた修正



【参考】主観指標：
将来の夢・目標を持っている子どもの割合

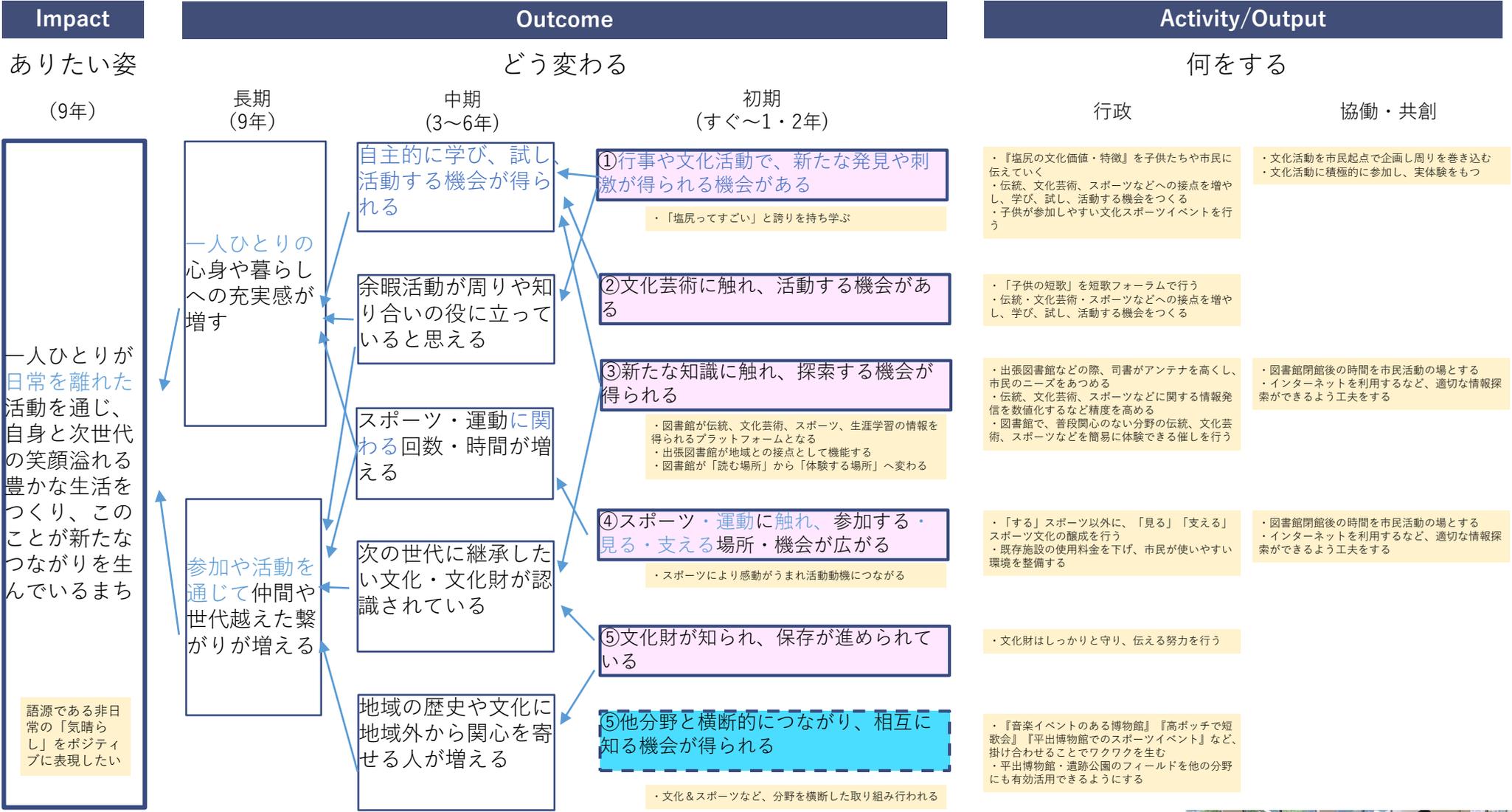
ワークショップの内容・ロジックモデルの変更点の概要

- ロジックモデルの見直しに関する意見は出されなかったが、初期アウトカムの具体的なイメージを踏まえて、文言を調整をしている。
- アクティビティについては、教員側の負荷を考慮しつつも教育現場と子供の接点をより重視した教育視点を持つこと、地域資源や家庭との関わりにおいて企業の教育への関わり方や機会を準備することが求められた。
- 不登校の子どもたちに対する配慮など、取り残されないための仕組みづくりについても具体的な意見が交わされた。



分野③ 伝統・文化芸術・スポーツ・生涯学習

※青字は意見などを受けた修正



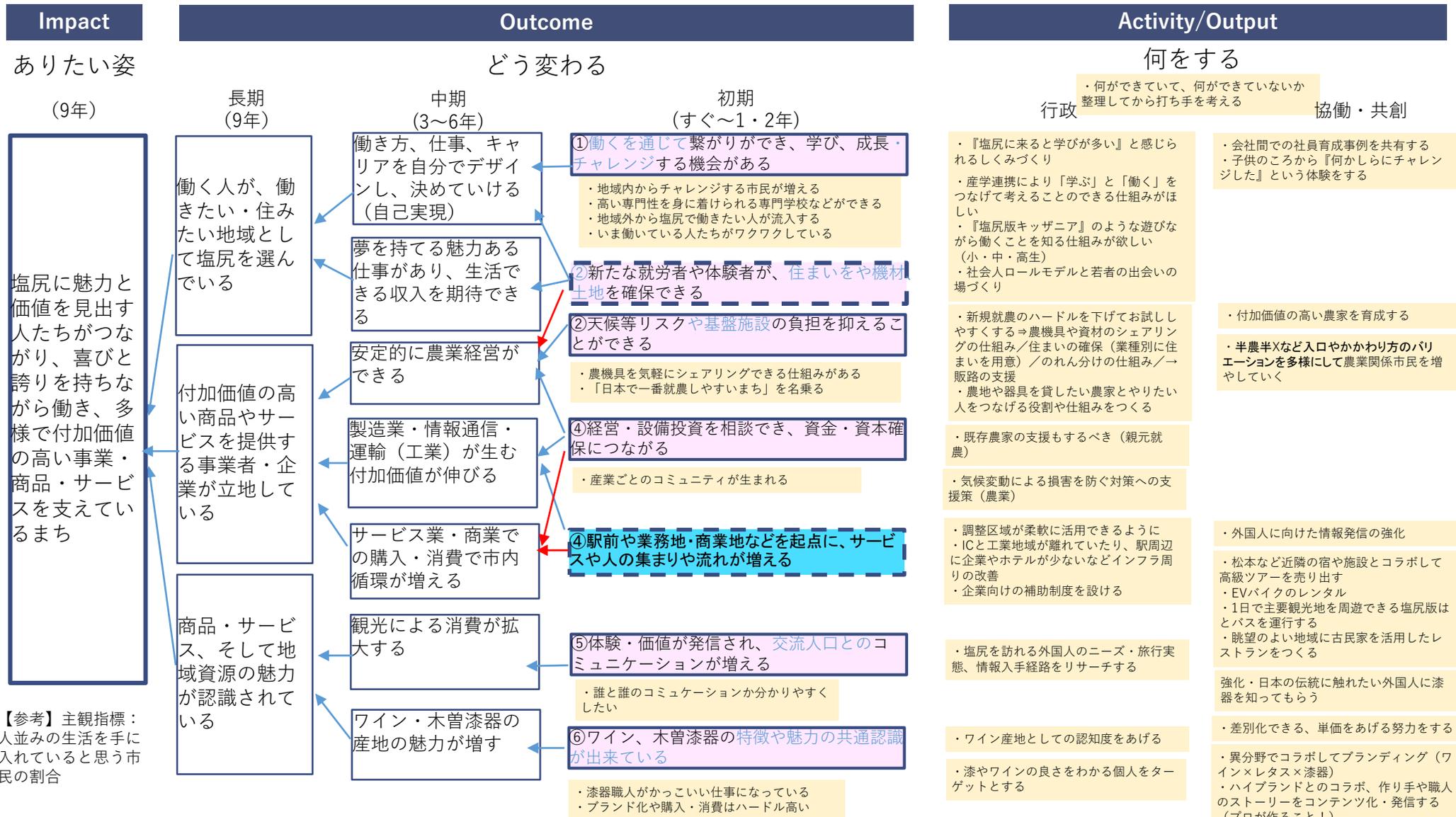
【参考】主観指標：自身は地域で役割を果たす活動的な一員であると思う市民の割合

ワークショップの内容・ロジックモデルの変更点の概要

- ・ありたい姿の表現について意見が出され、また横断的な観点から初期アウトカムへの意見が多く追加された。
- ・アクティビティについては、活用のしやすさが向上するよう行政への要望が多く挙げられた。また協働・共創の観点から塩尻の文化に対し主体的に関わるための情報を得やすい環境も求められた。
- ・伝統、文化芸術、スポーツ、生涯学習それぞれを別個にとらえるのではなく、それぞれを掛け合わせることで新たな関心が生まれる仕組みについて、多くの具体的なアイデアが持ち寄せられた。



※青字は意見などを受けた修正



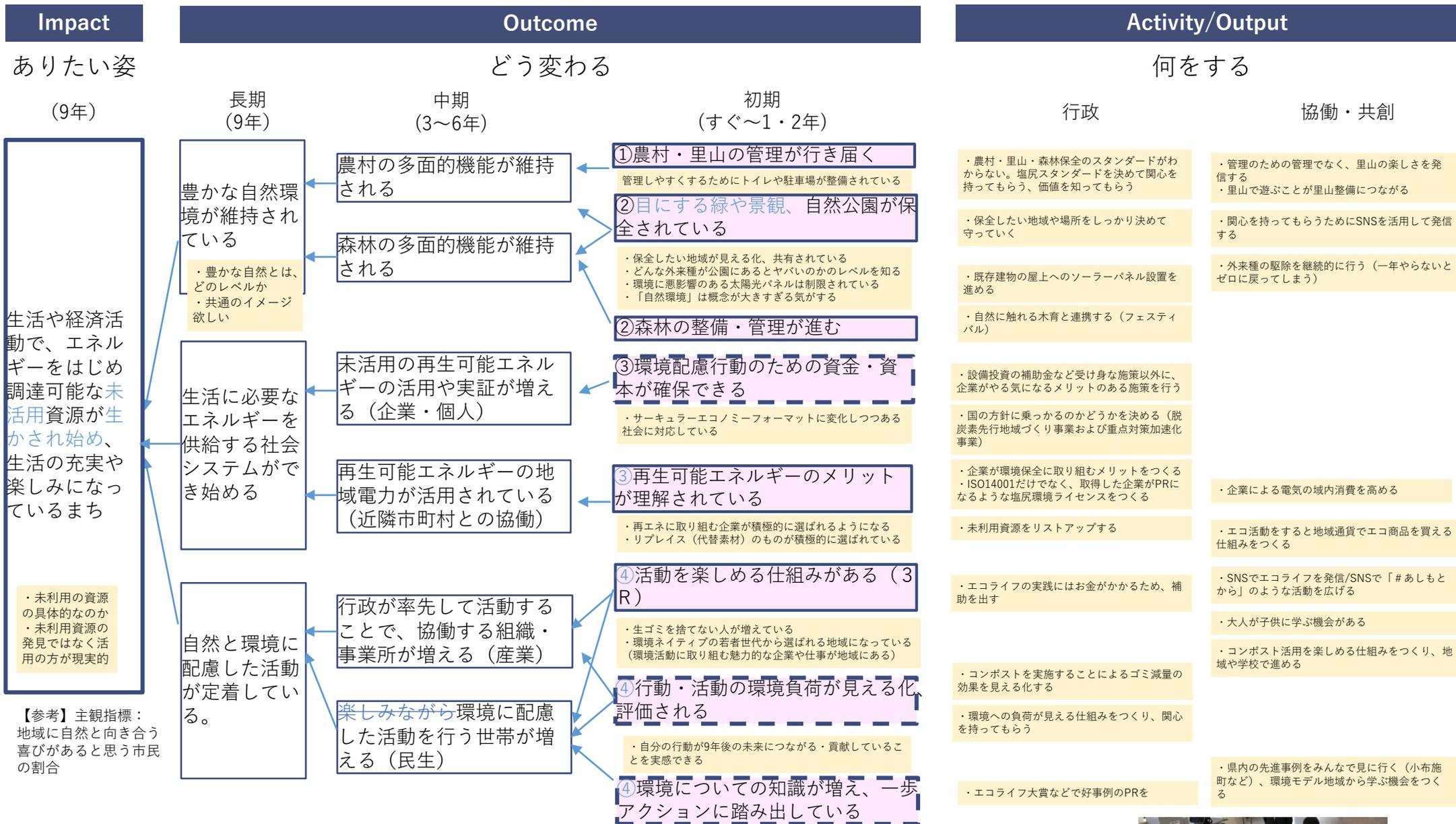
【参考】主観指標：人並みの生活を手に入れていると思う市民の割合

ワークショップの内容・ロジックモデルの変更点の概要

- ・ロジックモデルの見直しに関する意見は出されなかったが、初期アウトカムの具体的なイメージを踏まえて、初期アウトカムの追加や、文言を調整をしている。
- ・初期アウトカムについては、産業分野において「地域内でチャレンジする市民」の重要性、またワイン・木曾漆器については到達水準の見直しへの意見が出た。
- ・アクティビティについては、産業分野において「学ぶことと働く事」、農業分野、観光分野で多くの意見が集まった。



※青字は意見などを受けた修正



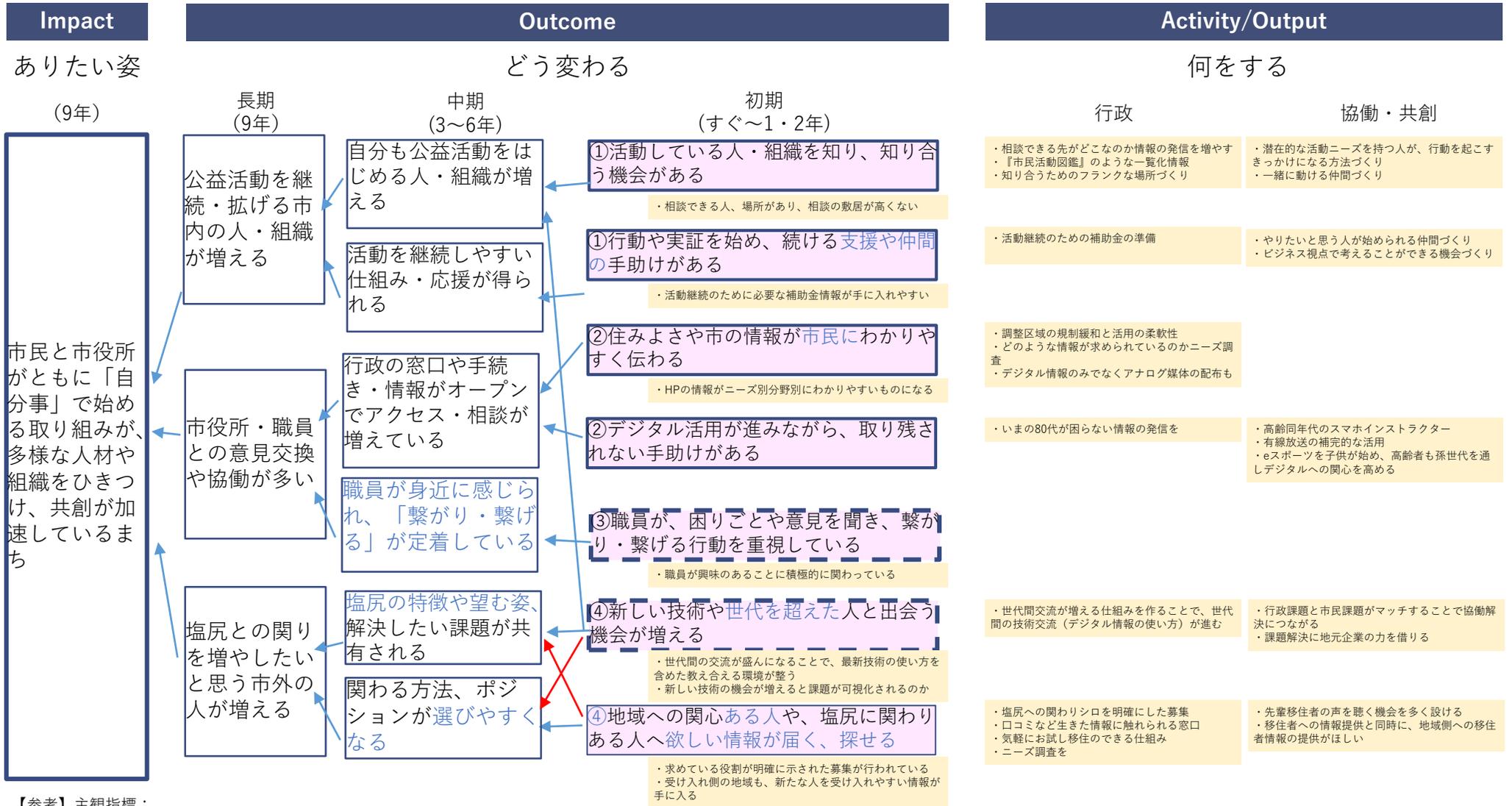
【参考】主観指標：地域に自然と向き合う喜びがあると思う市民の割合

ワークショップの内容・ロジックモデルの変更点の概要

- ・ありたい姿の詳細や、長期アウトカムの確認がされ、初期アウトカムの具体的なイメージを踏まえて、文言を調整をしている。
- ・初期アウトカムについては、現状とそのギャップの把握・共有から始める必要性への意見が出た。
- ・アクティビティについては、現状実施していることと、これから取り組めることの再整理したい意見が出た。



※青字は意見などを受けた修正



【参考】主観指標：
行政は地域のことを真剣に考えていると思う市民の割合

ワークショップの内容・ロジックモデルの変更点の概要

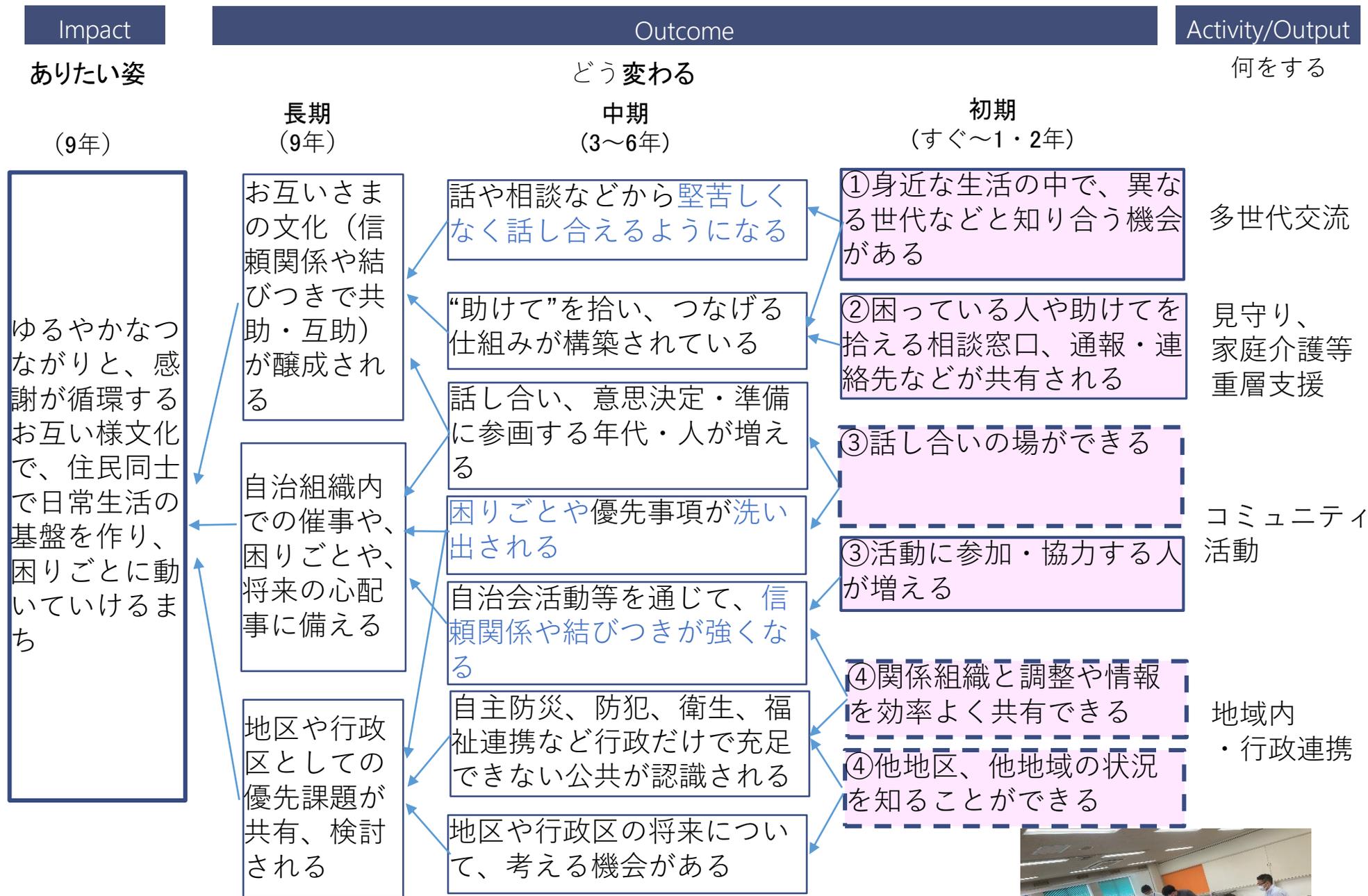
- ・ロジックモデルの見直しに関する意見は出されなかったが、初期アウトカムの具体的なイメージを踏まえて、文言を調整をしている。
- ・アクティビティについては、塩尻に関心を寄せる地域外の方向けの情報提供について意見が寄せられる一方、既存住民側への新規流入者の情報提供を含めた情報交換が求められた。
- ・塩尻での活動を促進するために、すでにある情報へのアクセスのしやすさ（親近感、敷居の低さ）や仲間づくりが大切であることに多くの意見が寄せられた。相談先がわかりやすくなることで、すでに整備されている環境の活用が進むと考えられる。



分野⑦ 地域社会、支え合い（共助・互助）

今後WS実施予定のため微修正のみ

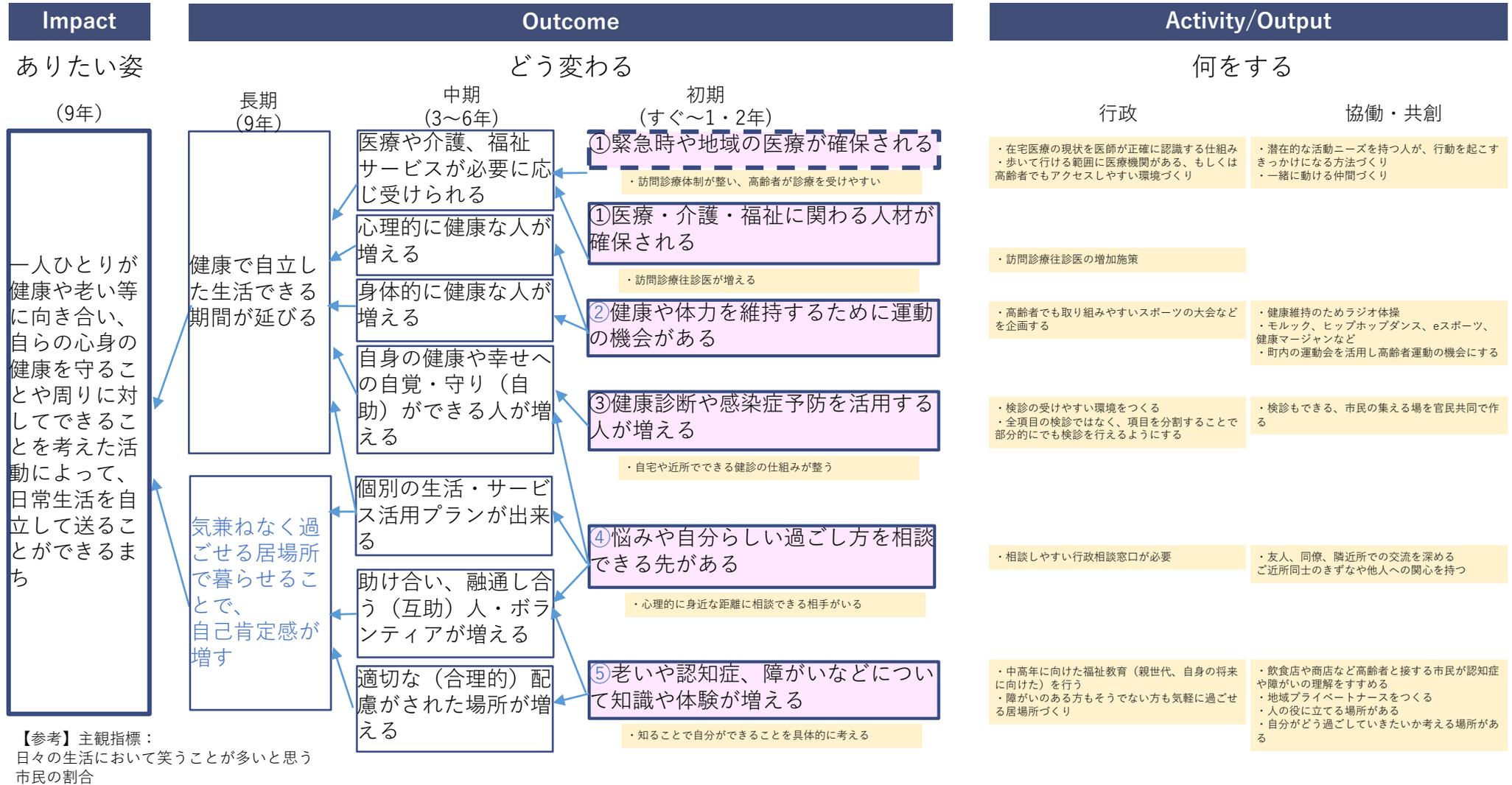
【資料1】



【参考】主観指標：
近所の方に感謝することが多いと感じる市民の割合

想定される外的要因

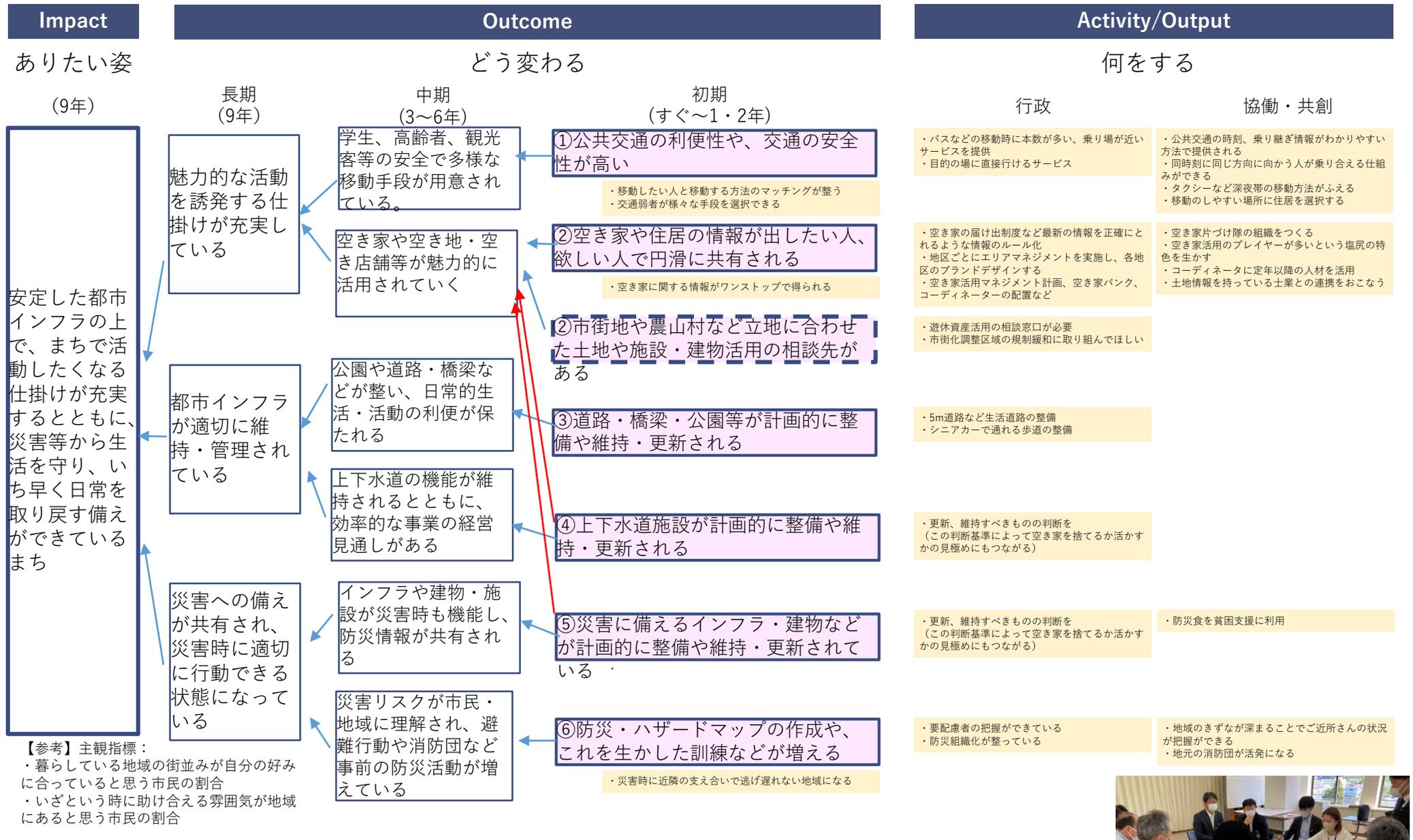
※青字は意見などを受けた修正



ワークショップの内容・ロジックモデルの変更点の概要

- ・アクティビティについては、在宅医療に対する医師数および医師の認識を改めることで地域医療の充実が図られることが議論された。
- ・健康診断について、すべての項目でなくても一部を近所の施設で実施することで、医療者側への負担も減るのではないかと議論がなされた。
- ・高齢化を迎えることをふまえ、高齢者介護の観点からも自身の健康管理の観点からも、若いころから福祉に対する学びの必要性が議論された。





【参考】主観指標：
 ・暮らしている地域の街並みが自分の好みに合っていると思う市民の割合
 ・いざという時に助け合える雰囲気がある地域にあると思う市民の割合

ワークショップの内容・ロジックモデルの変更点の概要

- ・アクティビティについては、横断的観点からの意見が多く出された。
- ・交通便利向上についてニーズのマッチングなど、空き家活用について空き家情報のマネジメントなど、ランドデザインと情報共有について多く議論された。
- ・空き家の活用は、その前提となる上下水道やインフラ整備や防災の観点と合わせて考える議論がなされた。

